

次号予告

特集 新・ORの図解

サポート・ベクター・マシンの幾何学的解釈 (矢島安敏・東京工業大学), 半正定値計画と内点法 (村松正和・電気通信大学), Dependent Rounding Technique (従属丸め技法)—最小カット問題の整数性— (松井知己・中央大学), 主双対近似解法 (宮本裕一郎・上智大学), 離散凸解析—離散最適化に対するボトムアップ的アプローチ— (森口聡子・上智大学), 列挙アルゴリズム (宇野毅明・情報学研究所), 固定パラメータ容易性 (岡本吉央・豊橋技術科学大学), 局所探索法—反復改善に基づく最適化の基本戦略— (柳浦陸憲・名古屋大学), 最適化から見た選挙の図解 (根本俊男・文教大学), 総当りリーグ戦とグラフ理論 (宮代隆平・東京農工大学), モラルハザード (渡辺隆裕・首都大学東京), ハフモデルによる地域間交流の強さの図示 (三浦英俊・明海大学), 資産価格の基本定理 (田中敬一・首都大学東京), DEAの図解 (森田 浩・大阪大学), 例解 ANP (関谷和之・静岡大学), データを累積すると見えてくるもの (逆瀬川浩孝・早稲田大学), 相関を比較する確率順序 (豊泉 洋・早稲田大学), 保険のリザーブと待ち行列モデルの双対性 (牧本直樹・筑波大学), 待ち行列のパケーションモデルの確率的分解定理 (山下英明・首都大学東京)

編集後記

●高等学校において教科「情報」が必修になったのは2003年度からであり, まだ教育現場では試行錯誤の状況が続いているようです。国際的にIT化が推進されており, 情報教育の重要性は年々増してきているにもかかわらず, 昨年問題になった必修科目の履修漏れ問題に地理歴史と並んで「情報」も挙げられたのは記憶に新しいところです。その原因として, 「情報」を担当できる教員不足の問題や, 大学受験等が関連していることが本特集号の論文により提起されており, 改めて大学側の役割や責任の大きさを強く感じました。
●そのような現状の中, 高等学校で実際に「情報」を担当されている二人の先生からご寄稿いただいた論文

からは, 各先生の授業に対する創意工夫が伝わりとても興味深く拝読させていただきました。より広義に捉えたとORは科学的な手法を用いて現実的な問題解決に適用しようとする試みであるといえるでしょう。このOR的な視点や手法を授業に取り入れることにより, 高等学校の情報教育の3つの目標である「情報活用の実践力」, 「情報の科学的な理解」, 「情報社会に参画する態度」を達成し, かつ高校生へのOR的思考法の入門にも役立つことが示されていたと思います。

●本特集号の論文が高等学校, 大学あるいは企業で情報関連の講義や講習を担当されている先生方に広く読まれて, 今後のより良い情報教育のあり方を考える上で参考にされることを願います。(増田浩通)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 山下英明(首都大学東京)

委員 池上敦子(成蹊大学), 岡野裕之(日本アイ・ビー・エム(株)), 栗田佳文(防衛省), 高野正次(日本電信電話(株)), 齋藤彰一(株構造計画研究所), 高嶋隆太(東京大学), 高橋一喜(東京ガス(株)), 田島博之(秀明大学), 田村一軌(財鉄道総合技術研究所), 田村亮二(キヤノンシステムソリューションズ(株)), 豊泉 洋(早稲田大学), 生田日崇(専修大学), 根本俊男(文教大学), 廣津信義(順天堂大学), 増田浩通(東京工業大学), 村井雅彦(株東芝), 渡邊 勇(財電力中央研究所)

本誌に掲載された記事についての著作権は, 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成19年8月号 第52巻 第8号 通巻560号

代表者 青木利晴

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

<http://www.orsj.or.jp/>

編集人 山下英明

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税込)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)へ